

学内共同施設(研究施設) 広域複合災害研究センター 概要

1. 背景

- 地球温暖化による**気候変動の激化**
- 切迫する**大規模地震・火山噴火の発生可能性**
- 少子高齢化・人口激減による**社会構造変化**

1つの自然災害を起点に・・・

- ◆ 災害規模の拡大による連鎖型**複合**災害へ
- ◆ 災害発生により、交通・物流、食料基盤、生活基盤、企業活動などに対して、**広域**的な経済被害が発生



- ✓ 災害規模の大規模化！
- ✓ 防災，災害対応，復旧復興活動対応が複雑化，多様化！



大規模災害により発生する現象や被害は、個別分野研究・対応だけでは解決は困難

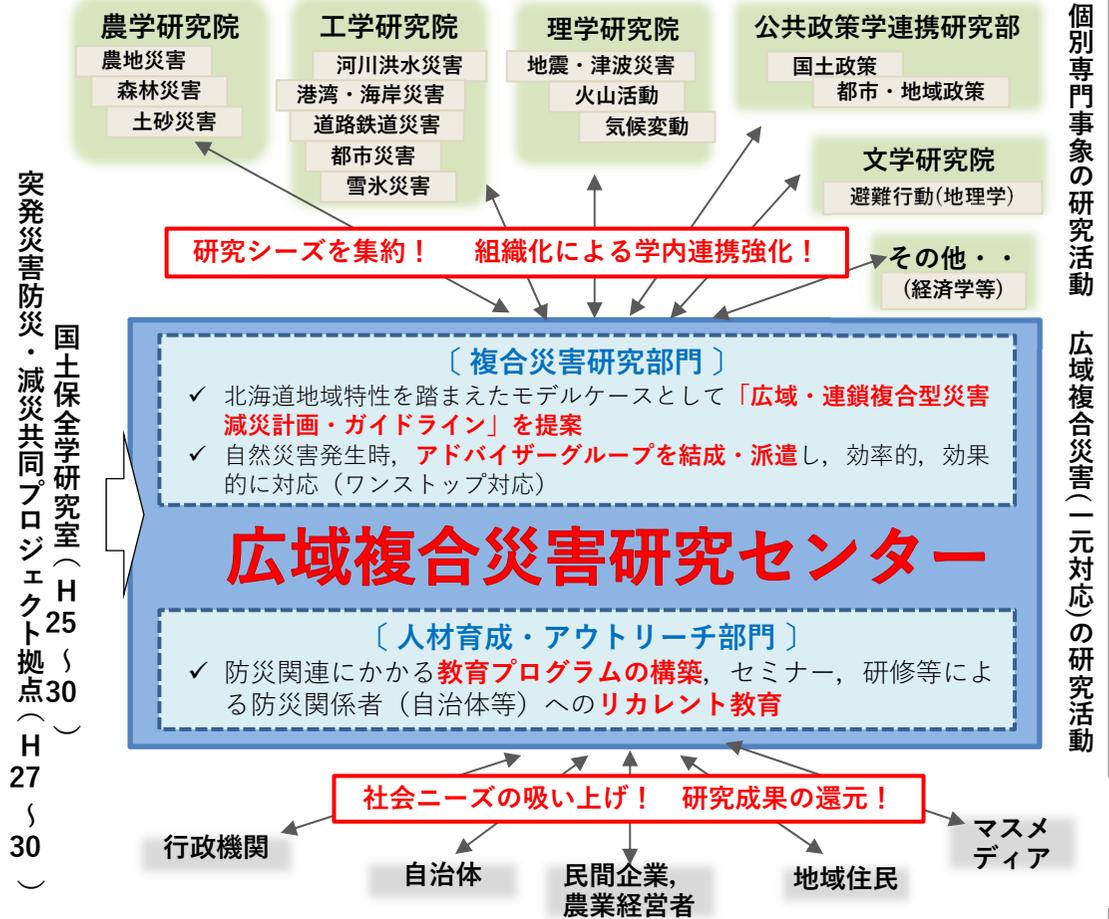
現在の突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点、国土保全学研究室（農学研究院寄附分野）における活動では、対外的に組織的な対応に限界



広域複合化する災害対応における**総合的な研究**，対外的な窓口としての**一元対応**が必要

2. 体制整備と活動

これまでの、突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点、国土保全学研究室における関連機関との連携研究の実績，各災害分野における研究資源を活用し，予防予測，災害対応，復旧復興についてセンター設置により**一貫した総合研究を推進**



3. 活動計画

まずは、当面5年間の活動を目安に、**北海道を対象**とした広域複合災害研究により、**汎用的なモデルケースとなりうる地域（札幌，帯広，釧路など）を絞って研究し**，**「広域・連鎖複合型災害減災計画・ガイドライン」モデルケースを構築**併せて，教育プログラムの実施，セミナー，研修等による，**防災関連人材の育成**に取り組む。